

台湾・台風8号による被害に対する日本赤十字社の対応



再建された集合住宅は長屋形式 ©台湾赤十字組織

2013年9月

台 湾



主要都市： 台北市、高雄市

面 積： 3万6千平方キロメートル（九州よりやや小さい）

人 口： 約2,329万人（2012年10月）

主要言語： 中国語、台湾語、客家語、その他原住民の言語

宗 教： 佛教、道教、キリスト教

【1. 災害の概要】

大規模な洪水や土砂崩れで数百人が生埋めになり、道路や橋も倒壊するなど、過去 50 年で最も深刻な水被害となりました。

発 災 日：2009 年 8 月 8 日 台風上陸

被 災 地：台湾南部および東部（高雄県、屏東県、台東県、嘉義県、台南県、南投県）

死 者：675 人

行方不明者：24 人

損 壊 家 屋：約 4,100 戸

経 済 損 失：被害総額は 122 億 3,700 万台湾ドル（約 351 億円）と推測



台湾南部の屏東県で発生した巨大土砂崩れの様子
2009年8月10日撮影 ©台湾赤十字組織

【2. 日本赤十字社の緊急救援】

台湾赤十字組織が行う救助活動や、被災者への救援物資の配付、一時見舞い金の支給、避難所の設置等に対して、日本赤十字社は 200 万円の資金協力を実施しました。（2009 年 8 月）



台湾赤十字組織ボランティアによる人命救助活動
©台湾赤十字組織

【3. 日本赤十字社の復興支援】

台湾赤十字組織が実施する 320 戸の仮設プレハブの建設、1,460 戸の恒久住宅の再建と周辺インフラの整備、生計再建支援などの中から、日本赤十字社は恒久住宅の再建と、台湾赤十字組織の災害対応能力・組織強化のための研修を支援しました。

（ア） 恒久住宅の再建

台湾赤十字会が南投県で実施した住宅再建事業（予算総額は約 1 億 3 千万円）の一部を、日本赤十字社が支援しました（日赤支援額は約 6 千万円）。

事 業 期 間： 2010 年 9 月～2012 年 9 月（2 年）

対 象 地 域： 南投県名間県（人口 4.3 万人）

支 援 内 容： • 28 戸の恒久住宅の再建

• 周辺インフラ（水、電気等）の整備

• 住民コミュニティの共有スペースの建設（入居者約 60 人が利用）



整然と立ち並ぶ恒久住宅街 ©台湾赤十字組織



入居者に話を聞く赤十字職員 ©台湾赤十字組織

(イ) 災害対応能力・組織強化支援

台湾赤十字組織は将来の災害に備えるべく、本部および支部レベルでの組織強化を行っています。日本赤十字社は、台湾赤十字組織の災害対応能力・組織強化のために、防災に関するノウハウや経験を共有する研修を支援しています。

事業期間： 2012年2月～2013年末（予定）

支援対象： 台湾赤十字組織 本部および支部

支援内容：

- ・災害リスク削減、災害マネジメント研修の実施
- ・ロジスティックと倉庫管理、コミュニティ防災研修の実施
- ・緊急医療救援と基礎保健研修の実施

【4. 救援金の使途】※ 2013年9月現在

日本赤十字社は2009年8月20日から9月18日までの約1ヶ月間、海外救援金の募集を行いました。台風8号の被災者支援のために寄せられた海外救援金は、6,770万9,066円でした。

台湾赤十字組織が行う緊急救援活動への資金協力	2,000,000円
恒久住宅の再建	59,583,200円
災害対応能力・組織強化支援	3,000,000円
職員派遣費等	490,674円
事業管理費	2,635,192円
合計	67,709,066円

～ みなさまのご支援ありがとうございました～

日本赤十字社の国際活動についてはホームページにも掲載しています。是非ご覧ください。
 URLはこちらです：<http://www.jrc.or.jp/kokusai/index.html>